

|             |   |
|-------------|---|
| 開催地名：京都府城陽市 |   |
| 開催日時        | 令和5年2月2日(木) 8:45 ~ 10:20  |
| 開催場所        | 城陽市立寺田南小学校  |
| 語り部         | 菅野 祥一郎 (岩手県陸前高田市)   |
| 参加者         | 小学校5年生児童 83名  |
| 開催経緯        | 児童は、避難訓練等で自然災害が人々の生活に大きな影響を及ぼすことを学習し、5年生の社会科では、地震について学び、防災対策や災害の現状、災害対策等を学習する。ただ、机上での学習では、自然災害を身近なものとして捉えるには限界もあるため、本事業の語り部の方から話を聞くことで、自然災害に対する見識を広め、防災意識の向上を図りたい。  |
| 内容          | <p>(1) はじめに</p> <p>私は岩手県の南、宮城県に接している陸前高田という地域に住んでいる。岩手県の太平洋側は、非常に入り組んだリアス海岸なので、津波の高さが増すことで被害が大きくなった。既に東日本大震災から11年が経った。あの震災が起こった時、大津波が押し寄せてきた小学校の校長として、こんなことがあったのだという体験をお話したいと思う。</p> <p>(2) 津波被害の特徴</p> <p>津波災害には3つの特徴がある。1つ目は、一度に多くの命が奪われてしまうことである。東日本大震災で亡くなった方々は、すべて津波で犠牲となられた。2つ目は、遺体が遠くに流されてしまい、見つからないことだ。行方不明者が多いのはこのためだ。3つ目は、忘れられてしまうということだ。東日本大震災の前に三陸地方で被害を受けた「チリ地震津波」は、もう50年以上も前の出来事である。津波は、頻繁に来ないことはいいことだが、前回被害にあったときから間隔がかなりあいてしまうため、いつの間にかその怖さを忘れてしまうのである。東日本大震災も時間が経つにつれて、テレビ等で報道されることも少なくなってきた。露出が減ると、もう自然と人々は、災害のことを忘れていくような雰囲気がある。</p> <p>(3) 命を守るとは</p> <p>最初に知っておいてほしいことが3つある。1つ目は私の小学校が海と川の近くにあったということ、2つ目は街と学校との間には橋があり、津波注意報が出るとこの橋は通行止めになってしまうということ、3つ目は私の小学校は災害時の避難場所だったということだ。</p> <p>地震が発生したときに所用で校外にいた私は、急いで学校に戻ろうとしたが、途中の橋が通行止めになってしまった。教師として、児童たちの命を守ることをしか考えていなかった私は、焦りながら、いつもより時間をかけて違うルートで学校へ戻った。その時、子どもたちや近隣の住民は校庭に整列していたが、既に津波は川をさかのぼり始めており、時間の猶予はなかった。校舎に入った方がいいと言っている人もいたが、私は、6年生から順番に、隣の山の上に登るように指示した。低学年から上るとつかえてしまい、より時間がかかってしまうと考えたからだ。校長の指示に従い、子どもたちも周りの大人たちもすぐに登り始めた。つい先ほどまで校門付近にいた数十人の人たちは、いつの間にか消えてしまった。校舎に逃げた人たちは、屋上の貯水槽の上に登れた一人の方を除き、流されてしまった。市役所の前には、女の子が3人乗った家の屋根が流されてきたが、誰も助けることはできなかった。私の小学校の</p> |

子どもたちが助かった理由は、住民の生死を分けたものは何なのか。それは、「誰よりも早く逃げることを決断したこと」、率先避難に尽きると思う。

#### (4) 避難所では

私たちの学校の子どもたちは全員が助かった。そして、何日か経つにつれて迎えに来る家族の人も増えた。いや、正確には迎えに来て帰る家がないのだから無事確かめに来た、と言った方がいいのかもしれない。ある子には最後まで誰も迎えに来ることはなかった。その子がどんな思いで家族が来てくれるのを待っていたか、みなさん想像がつくだろうか。本当に辛かったと思う。

このような状況の中で、信じられない人間もいた。遺体から財布の中身を盗む者たちだ。なぜこのようなことをするのか、目を疑った。皆さんは絶対このようなことをする人間にならないでほしい。

#### (5) 皆さんへのお願い

皆さんに、是非お願いしたいことがある。それは「命を大事にしてください」ということである。まずは自分の命を、そして隣の人を。必死に逃げても力尽き、亡くなってしまった女の子がいる。どんなに怖かったらうか。生きてくても、何の予告もなく人生を断ち切られてしまったのだ。持っていた夢をかなえることなく。だから、今、この時を大切に、生きていることの幸せをかみしめて、誰の命でも大切に人になってもらいたい。

地震だけでなく、いろいろな災害が日本中で発生しているが、自分の命を守るために率先避難を忘れずに、想像力を働かせて、日常生活の中で備えを進めてほしい。そして、気づき、考え、行動することを忘れずに、陸前高田の助かった子供たちのように、明るく前を向いて進んで行っていただきたい。



開催地より

東日本大震災での被災、避難体験と、命の尊さ、大切さについてお話を伺った。本日の講演を受けて本校では、保護者への安全教育の啓発を実施していくとともに、安全指導、避難訓練、危機管理マニュアルの見直しを行っていきたい。